

学校教育目標	～大きな夢 力いっぱい～ 夢と希望をもち 豊かな心でたくましく生きる子の育成
目指す学校像	～主役は子ども～「通いたい・通わせたい・働きたい」学校
重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」の実現 2 「心の教育」の充実(「いじめ防止」含む) 3 「地域とともにある学校づくり」の推進 4 「安心、安全で美しい学校環境」の実現 5 「学校の組織力」及び「教職員の指導力」の向上、働き方改革の実現

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				年度評価		学校運営協議会による評価	
		年度目標		年度評価		年度評価		実施日令和7年2月13日	
		現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に関する取組	1	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』の研究委嘱 (R6～8) を受け2年目である。R6 は教育データの蓄積に努めた。</li> <li>全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査、日常の単元テストの結果等から、知識技能(基礎学力)の定着に課題がある。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「個別最適な学び」を実現できるよう、データを効果的に活用するための研究</li> <li>学びのポイントじしゃくに対する教職員の意識向上と「教える」から「学ぶ」への意識変革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善</li> <li>全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の結果等を踏まえた教育の推進</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「学びの指標」を踏まえた学習者が主体的に学ぶ授業を実現する。</li> <li>研究委嘱を活用し、スクールダッシュボード導入に伴うエビデンスに基づいた効果的な指導法を研究する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「学びの指標」前期→後期での向上</li> <li>指導者を招聘した研究授業の実施年間3回以上</li> <li>学校評価(教職員)関連8項目肯定的回答90%以上</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4項目全て向上(0.02～0.11)</li> <li>教科を問わず、年間6回研究授業及び協議会を実施。指導者はICT専門と各教科担当の計2名を毎回招聘した。</li> <li>全て91.7%以上 毎週各自の授業の振り返りをして授業改善に活かすと共に、その情報を共有した。</li> </ol>	A	<p>研究授業を中心に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と「深い学び」に焦点を当て「わかった」「もっとやりたい」児童を目指して、各教員が授業を工夫した。</p> <p>次年度、研究委嘱の発表に向けてより組織的に取り組みたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価の項目については、指標の数が適切かどうかを改めて確認し、重要度に応じて整理・厳選することを検討したほうがよい。</li> <li>評価項目に対して達成状況にどのように学力が変わっていったのかを明記するとよい。</li> </ul>
	2	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長欠(傾向含む)児童約10%</li> <li>[相談できる先生や友達がいる]学校評価(児童)R6 90.6% 全国学調82%</li> <li>[自分にはよいところがある]全国学調91% 市学調1年以外80%台</li> <li>「いじめ見逃し0」をスローガンに、いじめの積極的認知を行っている。令和6年度いじめ認知件数27件</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長欠(傾向含む)児童が多いこと</li> <li>自信がなく、自己肯定感の低い児童が多いこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自己肯定感」の向上を目指した教育相談体制の充実</li> <li>発達支持的生徒指導体制の充実</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>SC, SSW, SL 及び関係諸機関との情報共有と連携を徹底する。</li> <li>本校 SoLa ルーム体制の周知及び一人ひとりの状況に応じた活用の充実を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校評価(児童)「相談できる先生や友達がいる」肯定的回答率の向上</li> <li>長欠(傾向含む)児童割合の減少</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>93.1%(↑2.5%)</li> <li>12/24 現在 同時期比較 ↓1.9% スクールダッシュボードの「おはよう・あすなるメーター」を活用し、管理職と担任で毎日情報を共有し、対応した。</li> </ol>	A	<p>必要に応じて SC, SSW や関係諸機関と連携し、情報共有を図ることができた。</p> <p>SoLa ルームは、今後も個に応じて対応していく。スクールダッシュボードを引き続き活用していく。</p>	
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクール6年目</li> <li>R6 第1回学校運営協議会において、育みたい児童の姿を「自分の居場所を作れる子」とした。第2回に児童会三役が参加した。</li> <li>SSNは実質2年目であり、育みたい児童の姿を各団体の視点から目指した。</li> <li>PTA や地域では後継者問題がある。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域でも挨拶のできる児童の育成</li> <li>適切な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働的継続的な取組に向けた、学校運営協議会とSSNとの協働体制の強化</li> <li>意図的・計画的で誠実な情報発信、受信、フィードバックの実施</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るため、学校運営協議会とSSNが協働した取組を行う。</li> <li>学校HP掲載による家庭地域への情報提供を行う。</li> <li>学校運営協議会へ児童を参加させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校評価(保護者、教職員)関連項目の肯定的回答90%以上</li> <li>学校HP内の学校運営協議会及びSSNのページ年間3回以上の更新</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>保護者92.3% 教職員 関連3項目100%</li> <li>3回更新</li> <li>児童会三役(6年生3名)が参加した。学校運営協議会内の「いじめ防止対策委員会」に児童がプレゼン形式で参加した。</li> </ol>	B	<p>今年度、SSNの参加団体を拡大することができた。学校運営協議会においては、委員の選考を熟考していく。</p> <p>児童はプレゼンでの参加はできているので今後は協議にも参加させたい。また代表児童だけでなく、他の児童とも交流ができればいい、工夫する余地がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のことを知ってもらうことが大切である。学校は地域によって違う。関わっている人にわかるよう、情報の発信の仕方にさらなる工夫が必要ではないか。</li> <li>学校評価の保護者回答率が低いことに対して、何が原因なのかを考える必要があるのではないか。提示の仕方を工夫したり、回答必須にしたりするのはいいか。</li> </ul>
	4	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校舎内外で老朽化が進んでいる。</li> <li>樹木伐採や除草等を計画的に行っている。</li> <li>保護者ボランティアや親父の会と連携した愛校運動が定着している。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化の進行</li> <li>主任を通じた校内掲示の見える化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心、安全で美しい学校環境の整備</li> <li>計画的な予算の執行</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教職員による計画的な安全点検の実施と、修繕の際には最後まで見届けをする。</li> <li>校内掲示の定期的更新</li> <li>保護者ボランティアや親父の会と連携して愛校活動を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>定期点検の毎月実施、改善個所の迅速な修繕</li> <li>学校評価(教職員)関連項目肯定的回答率の維持</li> <li>学校評価(保護者)[教室環境の整備]肯定的回答90%以上</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3日以内に実施報告、1週間以内に対応報告</li> <li>100%(↑3%)</li> <li>88.2%(↓2%) 校内掲示は毎月更新した。</li> </ol>	B	<p>迅速な修繕や定期的な校内掲示の更新、樹木伐採や計画的な除草等、今年度はこれまで以上に学校環境の整備に注力したが、学校評価に結びつかなかった。老朽化の進行に関しては、今後も市教委にお願いできる面はお願いしていく。</p>	
教職員のキャリア形成に関する取組	5	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価(教職員)[チームワーク]肯定的回答94%</li> <li>教職員の勤務時間外在校時間R6 45時間弱</li> <li>経験年数の浅い教職員が多い。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアの良さを生かした組織力向上</li> <li>年間を通じたメリハリのある働き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的で機動力のある「学校の組織力」及び「教職員の指導力」の向上</li> <li>児童と向き合う時間を確保するための働き方改革の実施</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>組織力・指導力向上のため、計画的に教職員研修を実施する。経験年数の浅い教職員にはOJTを実施する。</li> <li>キャリア及び組織内の役割に応じて、適切に指導、助言、環境調整をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2学期末までに一人2回以上授業公開</li> <li>校内メンター・メンティ研修会の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施した。</li> <li>教務を中心に実施した。 教務主任、学年主任を中心に、OJTで対応力を高めた。 管理職が中心となってキャリアに応じて指導助言した。</li> </ol>	A	<p>今後も研修を重ね、組織的に指導力向上を目指すと共に、各教職員のよさを共有し、互いに補い合いながら、チームとしての協働力を上げていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンター・メンティ研修をすることで職員が協働して日々の業務課題を共有し合いながら実践的な学びの場をつくることは必要で大切である。</li> <li>他校と比べると少ないかもしれないが、時間外勤務が35時間ある現状は改善途中であり、働きやすい環境づくりを進める必要があると考える。</li> </ul>
	5	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会後に業務改善検討委員会を開催し、些末なことでも働き方改革を積み重ねる。</li> <li>年間を通して、学校行事及び会議等の時間と内容の見直しを図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>優先順位を見極め、計画的な予算の執行を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4月→12月における在校時間の縮減 運営委員会後、業務改善委員会の設定</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>50時間→35時間</li> <li>実施した。 業務改善委員会を計画的に実施することで、各教職員の声を拾い、迅速に対応することができた。</li> </ol>	A	<p>定期的な業務改善委員会を実施し、全職員が自分事と意識して改善案を考え、迅速に対応した。働きやすく健全な職場にすることで、教職員が気持ちに余裕をもって児童の指導にあたっていく。</p>		